

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域の方からのゲートボールへの誘いがあり、日中の暖かい時間を利用して実際に数名の入居者が参加をし腕をふるった。地域の方も励ましの言葉や、手を貸していただき、有意義な交流が出来たと思います。今後もこのような機会がもてるよう努力していきます。

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近くに駅や公共施設がないため、現在は地域貢献という形はとられていない。	○	ホームに地域の高齢者に出向いていただき、交流を深めることも考え、今後の課題にしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議を開き、入居者一人一人についての支援のあり方、問題点などを検討し、安心して生活が出来るよう努めている。この話し合いを自己評価に繋げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が思う様に進んでいないのが現状です。議題のマンネリ化などが主な原因です。	○	ホーム内での会議に限らず、他施設の見学や研修等も実施していきたいと考えています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターや甲州市介護サービス連絡協議会の主催する会議や研修などには進んで参加をしサービス向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事業所全体の問題として、資料を出し合い、検討をしたり、実際に後見人制度については家族からの依頼があり、活用する機会があった。	○	今後更にこの問題が増えていくことを考慮に入れ、研修等にも多く参加をし、熟知して生きたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームにおいては虐待の問題については遭遇することはありません。職員全体が研修時の事例などを通じて再確認をし、現実にあってはならない事とし、注意を合っている。		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決まった時点で、管理者がその方の家に訪問することから始まり、実際に家族の方との話し合い、本人からの質問、疑問に対して十分に聞き取りを行ったうえで、契約時にはホームに来ていただき、納得をしていただくまで説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に筆記用具とポストを用意し、常に利用者、家族からの意見を聞くことが出来るようにしている。職員についても同様である。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態については即時に連絡を入れ、家族の指示を仰ぐ、対応が必要な場合には適切な処理をする。職員の移動については面会時、金銭の管理については入居者の利用料請求時に出納長のコピーを同封し、家族に送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所としての相談員の配置、併設事業所の窓口においての苦情の受付をしており、その都度対応し、反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者及び各事業代表職員による2ヶ月に一度の運営会議を通じ、管理者、相談員、職員代表があらかじめ各部署でまとめた意見を持ち寄り、要望、意見などを検討、話し合いを行い、その結果を日常業務に反映している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の外食、外出などによる職員の勤務調整は安全面を図る上から事業所全体の問題として調整をしている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	急な離職による対応として運営者と早急な話し合いを持ち、職員の補充を考え、利用者へのサービスの低下を防止するよう配慮をしている。	

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	甲州市に2箇所の認知症対応型のホームがありますが今後は更に連絡を密にし、情報交換をしながら密着型に繋がる取り組みをしていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での介護の現状を十分に聞き、緊急性があるのか、介護側の健康状態はどうなのかなどを踏まえ、地域性、医療面からの支援を含め対応をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的にホームは家庭の延長であることを利用者本人、家族にも伝え、家での生活と同じ様に暮らせるよう配慮している。例えば馴染みのものを居室に置く、慣れるまで家族に付き添ってもらい、電話を入れていただくなど。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	同じ時間を共有するという姿勢で接することを常に心がけ一緒に歌を唄ったり、共通の話題を見つけるなどして共に笑い、楽しむことに心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に訪れると、食堂や居室で本人を交えてお茶を飲みながら本人の近況や変化があったことなどを話題にして家族に伝える。又本人からの要望を家族を通して聞き、お互いの意志の疎通をはかり支えていく努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームに入居後の家族との関りについては、家族が疎遠にならないようホームの方から本人の状況を伝えたり、本人自身からも直接電話で話し、家族の一員としての認識を持ってもらうよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に暮らしていた近隣の方や友達に逢いたい・・・などの訴えがあった場合は可能な限り実現できるよう配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者のそれぞれの生活暦や性格をふまえ、個人差はあるものの、職員全員が声掛けに努め、入居者の内面を理解し、関り合うことの喜びを見出すように努力している。		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院、特養への転居の方についても経過や今後の方針について話したり、相談を受けたりする関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの時点で本人の思いや要望を聞いていても実際生活をされると違った考えが出てきます。家族と離れて生活をするという現実を受け止め、その方の意向に沿うような対応をし、支援をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで家で使用していた馴染みのもの例えば、仏壇、炬燵、テーブル、椅子、鏡台などを居室においていただき、家と同じ様な環境で生活が出来るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	集団生活とはいえ無理に行動を起させるのではなく、本人が何をしたいかを把握し、その人に合った過ごし方が出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回ユニット会議を開き、その方にあった介護の方針、方向性などモニタリングも含めて全職員で話し合い、医療面、家族の意見、意向を取り入れながら、長期、短期目標、具体的にどのような支援が必要かを3ヶ月間のプランとして作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その場、状況に応じた対処をするべく、家族、主治医と密接に連絡を取りながら、計画の見直しを検討し、実践している。		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌は入居者個人の1日の生活の流れとして毎日個別に記録されており、内容は生活全般、食事、睡眠、排泄の状況、表情の変化に至るまでである。生活をしていく上でのちょっとした変化が見られた場合は経過観察をし、見直しをも考慮に入れるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設事業所の大型の車を借り、全員で遠足、ドライブ、外食にでかけ、社会との繋がりを持つこと、外気に接することで入居者にとっても大きな楽しみの一つになっている。	○	家族にも参加をしてもらえるような機会を作りたいと考えています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日本舞踊、フラダンス、ビデオ鑑賞などのボランティアの方、小、中学生の夏休み中の体験学習を進んで受け入れており、一緒にレクリエーションをやったり、和気藹々とお茶を飲んだりしながら楽しい時間を共有している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の重度化に伴い、グループホームでの生活が困難と思われる方には本人、家族と話し合いを持ち、方針、希望を取り入れながら、他事業所のケアマネジャーや相談員との関りを持ち、話し合いの中で対応を考え、どのようにするか決めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域推進会議に市の包括センターからの出席がなされており、地域における現状、制度の改正、その他総合的な問題について情報を得ている。	○	今後は更に細かい情報や意見などを取り入れるため、包括センターとも密に関って生きたいと考えています。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導という形で月に1回ホームへの往診がなされている。その他の入居者についてもかかりつけの病院、医院があり、適切な管理がされている。		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症状の進行に応じて主治医、家族と相談をしながら、必要があれば専門医に受診をするように勧めるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一度、併設事業所から看護師巡回により健康管理が行われている。個別にも管理、相談が行われ、主治医、家族との連携に加わってもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院をした場合は、こちらから病院の方に行き、医師、看護師などからの本人の病状の確認、見通しを聞き、情報収集に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ホームではターミナルケア希望の方はいませんが今後希望があれば介護、医療の面でどのような支援をしていくか家族、主治医と連携をとり、検討していきます。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度者の退所が多くあり、現在では介護度4が2名程です。医療面での対応、特養転居などを視野にいれ、家族と話し合いをもちながら見守っている状態です。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人の環境の変化によるダメージは避けられないと思いますがそのダメージをなるべく少なくするには家族は勿論、本人を受容する態度をとり、アセスメントを重ねながら他事業所の関係者とも情報交換を重ねている。		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室を訪ねる際の本人への承諾等、その方への個人としての尊厳を理念としているように、常に念頭に置き接している。記録ノートに関しては入居者の共有スペースには置かないように注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人がどのようにしたいかを第一に考え、言動や行動は否定することはない。自己決定を重視した支援をするように心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活のリズムとしてのスケジュールは決められているがその他の例えば、レクリエーション、散歩などの参加、不参加は本人の意思によるもので強制したりすることはない。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在では移動美容室にホームに2ヶ月に一度の割合で来て貰い整容(カット、カラー、パーマ等)が行われている。又、以前住んでいた近くの美容院に出向き行く方もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑に野菜を採りに行く事からはじめ、下ごしらえ、簡単な調理、後片付けなどを利用者が率先して行っている。家事へ参加したことの満足感、達成感がうかがえる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒、喫煙の方はこのユニットにはいないが、おやつについては家での生活習慣の延長上であることから、本人の要望を聞き居室で摂って頂くようにしている。その場合は時間を決め、食事時間の前後は避けている。	

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	その方の排泄パターンが大体決まっている事を職員が把握し、促し、誘導するように支援をしている。	○	誘導した際、本人の排泄パターンとたまたま合致しなかった場合、状況判断が出来ず戸惑ってしまうケースがある。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日4～5名の入浴である為、入居者は一日おきになる。その日の身体状況にあわせ、本人の希望を優先し行っている。入浴にかかる時間もすれぞれそれぞれである。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼の間に炬燵を立ててあるスペースがあり、入居者各自が自由に利用している。睡眠状況などをみながら休息が必要な方には声掛けをし、居室、ソファ、炬燵で休んで頂くよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭先に出て草花を摘んだり、編み物、折り紙、読書と入居者の方がそれぞれに楽しみを見出しており、その様な環境作りができるよう時間の配分などを考慮しながら支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者本人の為の日用品、おやつを購入する代金は家族から預かりホームで管理をしている。本人が現金を所持することはないが、要望があれば買い物に同行し、一緒に買うようにしている。自由に使えるお金が常にあります・・・ということを本人に知らせています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日課としてホームの周辺を30分ほどかけて散歩をしている。月に一度は外食に出かけ、入居者各自が好みのものを食べる、また、春、秋にはドライブに出かけ桜の花や紅葉を満喫するよう行事として組み入れ支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	今年度は入居者全員でキグレサーカスの見学、遊亀公園の動物たちとのふれあいなどに参加しました。入居者にいてみたいところの希望をとり、なるべく要望に沿うように努めています。	○	家族と共に出かける事が出来ませんでした。今後の課題としてその様な機会を作っていきたいと考えています。

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特に新しく入所された方に関しては環境の変化による本人の不安を解消する為、電話による家族との連絡を勧めています。家族からも面会の日々の通知が来たり、家族の近況の報告がきています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、友人、入居者本人に関りのある全ての方が自由に面会ができる、時間を共有できるスペースがあり、お茶をのんだり、食事をしたり、楽しく過ごされています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての具体的な例題などをユニット会議でも議題にし、職員全体が拘束についての認識を再確認し、取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関、裏口(職員、業者の出入り口)は日中は鍵はかけることはなく、自由に出入りが可能になっています。夜間にはかけています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	散歩時の車の往来、外出時の行動の把握、確認、夜間帯での夜勤者による2時間おきの見回りは確実に行われている。居室への職員の出入りは必ず、本人に了承を得ている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤、石鹼類は異食の危険があることから入居者の状態に合わせて撤去する、包丁、鋏類においても持ち出せない場所に収納する、夜間は一箇所に集め、鍵が掛かるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止、食べ物、薬による誤嚥については見守り、点検、確認を常とし、全職員が責任ある行動、態度で接していくよう、現場、会議を通して認識している。		

事業所名: グループホーム ひかり長屋

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の摂取能力に合わせて、配膳の際に調整をしている。主食、副食、水分量の一日の目安を決め、本人の摂取量の記録をし、健康状態の把握に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種については、入居者、全職員が受けている。ノロウイルスに関しては保健所から来て貰い予防法、実際に嘔吐した際の処理の方法、次亜塩素酸液の作り方の講習を受けている。処置時のグッズの常備、マニュアルを掲示している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理前の手洗いの励行、家事参加をする入居者のエプロンの装着、調理器具の洗浄、滅菌などに注意を払っている。食材については当日か一日前に届くようになっている。必ず、賞味期限を確認し、届いた日付を記入するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関からはホーム内の様子が見え易いように障害物を置かないようにし、季節の花を飾るようにして工夫をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には炬燵を置き、団欒の場を作ることが出来る。各ユニットの中心にはホールがあり、合同でレクをやったり、講師を招いてフラワーアレンジメントを行うなど入居者の憩いの場になっている。トイレの照明、換気扇は自動になっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には椅子を置き、面会時、見送りに出た際に掛けられるようになっている。居間のソファでは一人でテレビを観たり、読書をして過ごすスペースがある。ユニットの両側には小人数で話をしたり、休憩ができる談話室がある。		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたテーブル、椅子、鏡台などが置かれていて家庭にいた時と同じ様なスタイルで生活が出来るように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂、キッチンには換気扇が取り付けられている。冷暖房の調節には気を配り、外気との差を大きくしないよう配慮し、コントロールしている。冬の時期には加湿器を使用し、湿度の管理をしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関、廊下、居室、トイレは全てバリアフリーになっている。廊下、トイレなど移動に必要な場所には手摺りが設置されており入居者にとっての安全な環境が整っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ、風呂場の場所の表示をしたり、入居者が自室の場所を確認できるようにオリジナルの灯りを取り付けるなどして本人の自立を促している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの庭にテラス用の椅子、テーブル、日よけ傘を設置し、季節を問わず陽だまりでお茶を飲んだり、歌を唄ったり、入居者同士のコミュニケーションがとり易い場所になっている。		

事業所名：グループホーム ひかり長屋

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ★ 農村地域（果樹）に立地し、春は桃源郷となり、収穫時にはたわわに実った桃、ぶどうを真のあたりに眺める事が出来ます。交通量も少なく、安心して戸外に出る事ができる恵まれた自然環境の中にあります。建物においても全体の面積が広く、ゆったりとしたスペース（居間、畳の間、廊下、談話室）があり、入居者がその人らしく、それぞれの生活のペースを守りながら安心して暮らせるホームであると思います。又、入居者が耕作、収穫の喜びを実感できる畑（農園）を所有しており、季節に合った野菜（夏：きゅうり、なす、かぼちゃ、ジャガイモ、トマト、ピーマン、スイカ、トーマロコシ）（秋：ほうれん草、ねぎ）など多種に亘り、植え付けから収穫までを職員共に行い、農作業の楽しみ、調理をして食べる満足感を味わうことができています。